



中丹

農業改良

第32号

普及センターだより

京都府オリジナル水稲新品種

京式部

の品質向上に向けて



京都府中丹広域振興局農林商工部

中丹東農業改良普及センター

〒623-0012 綾部市川糸町丁畠 10-2

TEL 0773-42-2255

e-mail:chusin-no-higashi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

中丹西農業改良普及センター

〒620-0055 福知山市篠尾新町 1-91

TEL 0773-22-4901

e-mail:chusin-no-nishi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

発行

2023年
(令和5年)

"築いていこう 差別のない 明るい社会"

中丹地域で取り組む普及活動の重点計画

3か年計画（令和3～5年度）で
取り組んでいる、4つの重点計画について報告します。

1. これからの水田農業を担う 次世代への支援

これからの中丹地域の農業を支える人材を育成するため、集落営農組織の若いオペレーターの方を対象とした技術講座等を開催しています。令和3年度に実施した水稻の基礎講座を受け、令和4年度は受講生の方が自分のほ場において水稻生育調査を行うことで、水稻の生理・生態を学び、栽培技術を高めました。また、集落営農で栽培面積の多い小麦や小豆の基礎技術や農作業安全に関する講座を開催し、地域農業を支えるスキルを習得してもらいました。引き続き、これからの中丹地域の農業を担っていく若いオペレーターの支援を行っていきます。

これに加え、京都府のオリジナル水稻新品種「京式部」の栽培支援に関する活動も実施しています。（P6参照）



現地で水稻生育調査方法を学ぶ受講生(右)



技術講座で水稻栽培を学ぶ

2. 農作業体験を通じた 多様な担い手の参画

農業・農村を支えている担い手に対し、経営の問題や人材確保の方法などの支援を行うとともに、移住者や就農希望者が安心して営農できるような仕組みづくりを進めます。

令和3年度から新たに、福知山市内の幼稚園や小学校を対象に、京野菜である「えびいも」を題材にした授業を行い、食育を通じて農業への関心を高める活動を始めました。また幼稚園内の花壇や近隣の農地を利用し、えびいもの栽培から試食までを体験してもらいました。子どもたち、ひいてはその御家族が農業の楽しさと京野菜のおいしさを知ること、将来の農業の担い手発掘に繋がられることを期待しています。



力を合わせてえびいもを収穫



児童たちもえびいもに興味津々

中丹地域で取り組む普及活動の重点計画

3か年計画（令和3～5年度）で
取り組んでいる、4つの重点計画について報告します。

3. 「えびいも」の産地復興に向けて

中丹地域はかつて高品質なえびいも産地として、高い評価を受けていましたが、平成21年をピークに、高齢化等の影響で急激に生産が減少し、令和元年には出荷量がピーク時の1割以下になりました。一方で、えびいもは需要拡大の取組み等もあり、近年は単価も安定し、高収益が期待できる品目になっています。

そこで、冬に出荷でき、夏野菜である万願寺甘とうを補充する品目として、関係機関一体となって、えびいもの産地復興に取り組んでいます。最近進んできた機械化による省力化や直売所を活用した地元への消費拡大と合わせて、再び中丹が高品質なえびいも産地となれるよう頑張っています。



実演を交えながら出荷調製作業の講習会を実施



機械導入による土入れの省力化と精度を確認



水稻追肥時期を役員と共に確認



農地利用状況の現地調査に同行

令和3年度から始めた新たな活動では、集落営農が抱える課題を、「農地」「後継者」「経営」の各視点で、集落営農組織の方々に伴走しながら、課題解決を進めています。聞き取りを進める中で「後継者」の問題は、ほぼすべての集落営農組織に共通する喫緊の課題と言えます。

集落営農組織を支える役員や、機械作業を担うオペレーターの高齢化が進んでいます。解決が急がれる課題ではありますが、「組合員から適任者を見つけて同意を得る」ということは簡単ではなく、解決に向かう行動は先送りになりがちです。この課題に対して普及センターは、まず役員会などで議題としてあげて、具体的な行動を起こす必要性を訴えています。

4. 集落営農組織の持続可能な活動に向けて

□ 地域で活躍する農業士

綾部市 福井泰子さん

綾部市位田町で、茶を中心に万願寺甘とう、紫ずきなどを栽培しています。

その中でも、中丹地域の特産品である茶については、もっと身近な飲み物として親しんでもらいたいという思いから、紙コップで気軽に煎茶が飲める「リーフティーカップ」の販売を行うなど、消費拡大に向けた取り組みを行っています。また福祉事業所の方々に茶園の除草作業をしていただいています。今後も農福連携を活用し、中丹茶のさらなる盛り上げに貢献していきます。



指導農業士の福井さん

さらに、「のら×たん ゆらジェンヌ」としての活動を行うほか、農業の担い手の育成として農業大学校生の研修を受け入れるなど、中丹農業のために日々精力的に活動しています。



気軽に煎茶が飲める「リーフティーカップ」

□ 『担い手養成実践農場研修』 修了者に聞く(就農準備型)

舞鶴市 久保篤史さん

平成24年から2年間、「担い手養成実践農場研修」で栽培技術をしつかりと学び、家族の応援もあり、平成26年に舞鶴市西方寺で就農し、ハウスで万願寺甘とうなどを栽培しています。

就農後は栽培管理や病害虫防除などで試行錯誤の連続ですが、「なるようになる」の精神であり深く悩まず、地域の先輩農家や家族の力を借りながら日々農作業に勤しんでいます。

現在はナス、エダマメ、ホウレンソウなどの品目にも力を入れており、農業経営も軌道に乗ってきました。会社員時代とは違い、家族と一緒に過ごす時間が増え、充実した毎日を送っています。これからも笑顔でこの地域で農業を続けていきます。



収穫作業中の久保さん

頑張る生産者の声

頑張る法人

福知山市 農事組合法人 かわい

福知山市三和町川合地区は、「川合がいつまでも川合であるために」を合い言葉に、廃校を活用したキャンプ場や食育、旧JA店舗での野菜市の開催、猿害対策、移住促進事業等、地域活性化に向けて様々な組織が活動を展開しています。

農地の利用調整機関の「川合地域農場づくり協議会」と農地保全や水稻等の栽培を担当する「農事組合法人かわい」の2つの組織による「2階建て集落営農方式」により農地を担っています。

川合地域では地域の様々な組織が連携し、誰もが住み続けられるように地域の役員や草刈り等の住民の負担を減らした「コンパクトINAKA」の実現を目指し活動を続けていきます。



旧JA店舗を利用した「かわい野菜市」

頑張る若手生産者

舞鶴市 山下正隆 さん

山下正隆さんは、元々雇用で農業に携わっていましたが、独立を志し、令和3年度から舞鶴市鹿原で「担い手養成実践農場研修」に取り組んでいます。今年度は主に万願寺甘とう（露地5a、ハウス2a）及びえびいも（5a）を栽培しました。

植物の状態をよく観察し、変化を見逃さないように心がけているほか、研修2年目となった令和4年度は、気候やほ場条件、作業の時期や方法など、前年度との違いを分析しながら、来年度の栽培に向けて振り返りも欠かしません。

現在は主に1人で作業に当たりますが、「将来は雇用の受け入れ口として、舞鶴で農業をしたい人の選択肢の一つになれば」と話されます。地域の農業を支えられる生産者を目指して、日々頑張っています。



えびいもの出荷調製中の山下さん

6次産業化

綾部市 悠々工房したのかち

「悠々工房したのかち」は綾部市下替地町で平成6年から、町民全員参加の組織としてスタートし、現在は主に13名のメンバーで活動を行っています。取扱い商品は、栽培した山椒を加工した山椒せんべい、実山椒の佃煮、山椒みそなどで、「京都中丹いちおし商品」に認定されました。

それぞれの得意分野を活かすため、タイミングの見極めが難しい山椒の収穫作業などは女性が担当し、力仕事は男性が担当するなど、みんなで助け合いながら楽しく活動しています。代表の四方久野さんは、「これからも山椒を大切にしながら、加工品作りや農作業体験など、みんなで夢のある取組みを行いたいです」と、地域の活性化に向けた活動に意欲的です。



「悠々工房したのかち」の皆さん

女性組織

福知山市 福知山地方生活研究グループ

「福知山地方生活研究グループ連絡協議会」では旧町ごとに連絡協議会（以下地連）があり、それぞれで朝市や料理講習会などの活動を行っています。今年度は大江地連が特産品加工・販売施設「鬼和味」で調理・販売する「鬼おこわ」が、福知山市が鬼のまちを食の面から発信するために募集した「福知山でしか食べられない鬼グルメ」に選ばれました。

10月25日には綾部市生活研究グループの方々と共に、兵庫県朝来市で加工研修を行いました。コロナ禍で3年ぶりの研修となりましたが、会員の親睦を深めるよい機会となりました。



綾部市生活研究グループとの合同研修



鬼グルメに選ばれた「鬼おこわ」

Topics

農福連携の動き

普及センターでは、農福連携の促進に向け、農業者と福祉事業所のマッチングを支援しています。

令和3年度から令和4年度にかけて、綾部市西坂町の農業者「旬果鮮菜夜明けのポポー合同会社」と綾部市内の福祉事業所のマッチングを支援しました。主な作業内容は、ほ場の除草作業などで、福祉事業所の利用者の皆さんは、「農作業に慣れてきて、綺麗になったほ場を見ると達成感がある」とのことでした。農業者は「手が回らない作業を効率良く行ってもらい、大変助かっている。これからも引き続きお願いしたい。」と農福連携に手応えを感じています。



ブロッコリーほ場の除草作業を行う



万願寺甘とうの
後片付け作業を行う

ICTを活用しスマートな「舞鶴いちご」栽培を実践

舞鶴市 武田敏和 さん

7年前の就農時から、特産の「舞鶴いちご」を栽培していますが、需要の大きい冬季に、日照不足や低温で収量が少ないことが課題でした。そこで、養液栽培や小型ハウス用の統合制御機「アルスプラウト」を導入しました。

日照量に応じたかん水同時施肥や暖房・内張を連動させた温度管理などによって、さらなる出荷量増加を目指して取り組んでいます。



機器を確認する武田さん

京都府オリジナル 水稻新品種『京式部』

水稻新品種である「京式部」は京都府が開発した品種であり、令和3年度から府内で本格的に栽培が始められました。この品種は大粒で香りがよく上品な味わいであり、夏期が高温の年でも外観品質が低下しにくいという特長があります。

中丹地域では、令和4年度に約40ha栽培されました。生産者からは、「食味が良くコシヒカリよりも倒伏しにくい品種である」と評価されています。

普及センターでは、ほ場の巡回や生育調査、講習会を実施し、収量・品質を向上できるように支援を行っています。



生産者とほ場を巡回し生育状況を確認

P8の「農業クイズ」の答え
濃い色の方が甘い。

解説：黒系と赤系のぶどうは熟すにつれて色が濃くなります。そのため、色が濃い物の方が甘味が強く酸味が少なくなります。またシャインマスカットなどの緑系ブドウでは濃い緑色よりも黄色みがかかったものの方が熟しており、甘味が強く酸味が少なくなります。

センサーカメラによる 獣害対策支援

舞鶴市久田美地区では毎年、田畑への獣の侵入があり、獣害が発生していました。そこで普及センターでは、侵入経路特定のために、センサーカメラを設置しました。その結果、電気柵が効果を十分に発揮できず、シカが電線の間などから侵入する姿が確認されたので、電線を増やし電気柵を増設するなどの対策強化を図りました。さらに映像を地域住民に見てもらおう事で、獣害対策への意識向上に繋げることができました。



地域の方々とカメラを設置

京都府立農業大学校生が 農業士を訪問し見聞を深める

「中丹地域農業士会」(農業士31名で構成)と京都府立農業大学校との共催で、学生が就農に必要な知識や情報を得ることを目的に、現地見学会を毎年開催しています。

令和4年11月18日、舞鶴市の指導農業士3名のもとを訪問し、農業経営についての話を聞くとともに、農業公園「ふるるファーム」の都市農村交流などの取組みについて説明を受け、参加した農業士と和やかに交流が行われました。



森指導農業士(左から2人目)より、イチゴの高設栽培について説明を受ける農大生

全国茶品評会・関西茶品評会

かぶせ茶部門

全国茶品評会で農林水産大臣賞・産地賞
をはじめ多数上位入賞

京都府で開催された第76回全国茶品評会において、かぶせ茶部門で「土成茶園」の大槻由美子さん(福知山市)が農林水産大臣賞を、綾部市が産地賞を受賞されました。産地賞は2年連続での受賞となりました。さらに農林水産省生産局長賞をはじめ、中丹地域からは多数が上位入賞されました。

また、滋賀県で開催された第74回関西茶品評会においても、かぶせ茶部門で「綾部緑茶生産組合」の出口則明さん(綾部市)が、日本茶業学会会長賞を受賞されました。



土成茶園の皆さん

農作業中の 死亡事故防止について

農林水産省の最新の調査データによると、毎年300人前後の方々が農作業中の事故で亡くなっています。農作業中の死亡事故は一般交通事故の約5倍、建設業の約2倍にも及びます。農機事故を未然に防ぐために、以下の3つの対策を徹底しましょう。

- 1 確実な運転操作とブレーキ連結の確認
- 2 安全キャブ・フレームの装着とシートベルト・ヘルメットの着用
- 3 ランプ類や低速車マーク等の取り付け

普及センター掲示板

後継者の育成等
よろしく
お願いします！

新しい農業士さんです

福知山市

指導農業士
久保世智さん

福知山市三和町で「株式会社 SEASON」を経営し、万願寺甘とうの生産や、ぶどうジュース等の加工品販売にも取り組んでいます。

また、万願寺甘とう栽培の技術研鑽に努めるとともに、後継者育成に携わることで、農業振興に貢献したいです。



舞鶴市

指導農業士
後守貴博さん

舞鶴市字上東で「株式会社 アグリベリス」として花苗や野菜苗を生産しており、神崎落花生の再生や農福連携などを通して地域を発展させたいと考えています。雇用している農業大学の卒業生には、栽培技術や経営理念を伝承し、後継者育成にも取り組んでいます。



綾部市

指導農業士
四方英幹さん

綾部市小西町で茶を軸に、水稻・万願寺甘とうなどを栽培しています。

「にのくに茶業青年団」の団長として茶の振興に努めてまいりました。また日本茶インストラクターの資格を生かして、イベント開催などを通して、たくさんの方に茶の魅力を伝えていきたいと考えています。



綾部市

指導農業士
西山秀人さん

綾部市小畑町で「株式会社丹波西山」として水稻を軸に経営しています。

有機 JAS の認定取得や京都府オリジナル水稻新品種「京式部」の栽培などに取り組み、そうした新技術や新知識を地域にも伝えるなど、地域に根ざした法人を目指しています。



お世話になりました

退任される農業士さん

福知山市

指導農業士
川勝初美さん



? 農業クイズ



黒系と赤系のブドウは色の濃さによって甘味が判別できるといわれていますが、濃い色と薄い色のどちらが甘いでしょうか？（答えはP6に記載）

普及センターだよりの バックナンバーをwebで閲覧

平成16年の第1号から昨年度発行の第31号までを、中丹東農業改良普及センターのウェブサイトでご覧できるようにしました。懐かしい記事もありますので、是非ご覧ください。



京都府農山漁村伝承優秀技能認定者 『農の匠』に認定

京都府農山漁村伝承技能登録者の内、極めて優秀であり継承すべき技能の保持者を「匠」として認定しています。

山口宏和さん(舞鶴市)

技能名「万願寺甘とうの栽培」

万願寺甘とうの栽培において、籾殻・牛糞での自家製堆肥の製造・施用や深耕など土壌環境づくりに力を注いでいます。

また日当たりが良く、春先の気温が他地域よりも高いなどの気象条件に恵まれています。その地域特性を活かした早期の定植に取り組むことで舞鶴市の平均を大きく上回る収量を可能にしています。



"農薬はラベルをよく見て、安全に使用しましょう"